

北辰土建の森づくりボランティアを支援

好天に恵まれた6月29日、「オホーツクの森」で北見市の北辰土建株式会社の要請を受けて「育樹活動・オホーツクの森づくり」として社員14名その他、ボーイスカウト及び関係者を含めて22名が、昭和61年に植えたアカエゾマツ造林地の枝打ちを行いました。

当センター職員の歓迎のあいさつとスケジュール・注意事項の説明の後、車・徒歩で現地への移動となりました。



(移動途中での説明の様子)

15分間位の徒歩での移動中には、「マタタビは花があることを鳥や虫に知らせるために葉を白くする」「木が混んで光が届かなくなると草や笹が生えなくなり、大雨の時には土砂崩れにつながる」などの話をしながら現地へ向かいました。

現地には大きなクマゲラの食痕があり、クマゲラの話と「子育て時期には土木工事も配慮をお願い」し、希少種保護への協力もお願いしました。

枝打ち作業では、はじめは慣れないノコに苦戦していましたが、「まっすぐに引く」「大きくゆっくり」などのアドバイスを受けてからはテンポ良く進みました。



(クマゲラの食痕説明)



(枝打ちだよ)

作業終了後には、参加した子供たちへのご褒美と社員の子供(孫?)へのおみやげとして参加者でロケットラワンを作り、その出来映え(飛び具合)に歓声を上げました。

最後にボーイスカウト団長でもある鴨下北辰土建株式会社会長からの「富士山が世界遺産登録となったが、ゴミで自然遺産ではなく文化遺産となった。自然を大切に守っていくことが大事。」というまとめで終了しました。



(会長より説明)

今後も常呂川森林ふれあい推進センターでは、企業のCSR活動を支援していきますので、ご相談願います。